指示表現と評価

中俣尚己（京都外国語大学　嘱託研究員）
nkmt_n@yahoo.co.jp

１．　はじめに

日本語の指示表現の中には，低評価を表す時に偏って使われるものがある。

（1）a.　そんな宝物，価値がない。
　　b. ??そんな宝物，価値がある。
　　c.　そんな宝物こそ，価値がある。

（2）a.　その程度のこと，私にもできる。
　　b. ??その程度のこと，私にはとてもできない。

一方で，高評価を表していると考えられる指示表現もある。

（3）　これはあの織田信長が使った兜です。

本発表の目的＝これらの指示表現と評価に関する偏りを「経験基盤的ヒエラルキー構造」を用いて統一的に説明すること。この説明装置は指示表現以外の低評価を表す形式のメカニズムの説明にも応用がきく。

２．　低評価に偏る指示表現

２．１　コーパスのデータから

まず，「そんな」がどの程度低評価に偏るかを表に示す。これは『日本語話し言葉コーパス』のうち100万語相当部分に見られた「そんな」を低評価・高評価・評価なしに分類したものである。参考までに，「こんな」「あんな」の例も示す。

表　「そんな」「こんな」「あんな」と評価

形式	そんな	こんな	あんな	総計
低評価	241**(69.5%)**	88 **(45.4%)**	13 **(86.7%)**	342**(61.5%)**
高評価	46(13.3%)	11(5.7%)	1 (6.7%)	58(10.4%)
評価なし	60(17.3%)	95(49.0%)	1 (6.7%)	156(28.1%)
合計	347(100%)	194(100%)	15 (100%)	556(100%)

低評価とは(4)のように，「そんな」で修飾される名詞句自体が低評価をもつものと，(5)

のように，名詞句自体は低評価ではないが，後の命題でそれが否定され，命題全体としては低評価になっているものがある。

（４） お年寄りがこれからの人生に悲観して自殺してしまうそんな世の中が果たして本当に理想の未来なのでしょうか （『日本語話し言葉コーパス』 S06F0226）

（５） マリンブルーコバルトブルーサファイアブルートルコブルーいつ行っても違う海の色に出会いますそんな海の色もいつかは消えてしまうのか

（『日本語話し言葉コーパス』 S04F0040）

また，高評価の例は(６)のようなもの，評価なしの例は(７)のようなものである。

（６） このディズニーワールドは子供は勿論大人から大人もそして女性も男性もそれぞれが本当に心から楽しんでるという感じがこっちに伝わってきますそんな人達からパワー貰い夢の世界を体験した私達は益々ディズニーがそして(Fあの)アメリカがそして勿論人が大好きになりました

（『日本語話し言葉コーパス』 S01F0050）

（７） もう春の段階でもう高校生達と一緒にもう野球の練習に参加させていただいておりましたでそんな春の三月の末ぐらいのことだったと思います

（『日本語話し言葉コーパス』 S02M0092）

２．２ 先行研究

指示詞「そんな」にみられる評価的・感情的意味について分析した研究として鈴木(2006)が挙げられる。

（８） 「そんなＸ…」文の基本的な機能：

「そんなＸ」文は，先行文脈で述べられたところの性質・特徴を持つ事物Ｘを表し，その性質・特徴を，何らかのより一般化された概念としてまとめあげる働きをする。指し示された性質・特徴の他に，それと類似の性質・特徴も暗に示されることになる。「そんなＸ…」文では「そんなＸ」にまつわる何らかの言述が行われる。 (鈴木2006:94)

本研究でもこの「そんな」の基本的な機能については上記の既定に従う。本研究の議論において重要となるのは，**1.「そんな」は先行文脈で述べられた事物の属性に注目するということ**と，**2.他の事物も暗に想定される，つまり集合化が行われるということ**である。2.の**「集合化」**とは以下のようなことである。

（９）a. 太郎が持っている，そのカバンがほしい。

b. 太郎が持っている，そんなカバンがほしい。

（８)a.では太郎が持っているカバン自体を「その」が指し示しているのに対し，（３)b.では太郎が持っているカバンから何らかの属性が抽出され，その属性を持つカバン全体を指し示しているのである。ここで集合化のメカニズムが働いていると認定できる。

次に鈴木(2006)は「そんな」の評価的意味として「話者が事態を「価値・意味がない」ととらえる場合の“否定的”な感情・評価的意味」と「事態が「想定外」あるいは「実現の可能

性が低い」ものとして述べられる際の「予想外だ」という感情・評価的意味」の２種類があるとする（p.98）。そして，評価的意味が現れるしくみを説明する。

(10)　「そんなＸ…」文における「そんなＸ」に「価値・意味がない」という否定的な感情・評価的意味が伴う場合：

「そんなＸ」は，先行文脈で述べられたところの性質・特徴を持つ事物Ｘを表す。指し示された性質・特徴の客観的なプラス・マイナスの価値に関わらず，それは話者から見て，何らかの意味で価値・意味がないものとして一般化され，まとめあげられる。　（鈴木2006：102）

(10)の問題点：なぜ「否定的」なのかということはわからない。

→プロセスを解明する。

２．３　経験基盤的ヒエラルキー構造

図のような構造を考える。

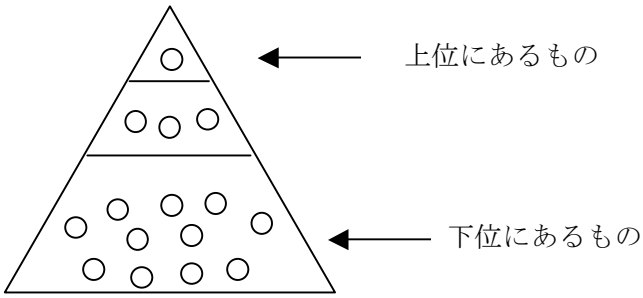

図　経験基盤的ヒエラルキー構造

これは我々の経験に基づく「上位にあるものは数が少なく，下位にあるものは数が多い」という知識を図にしたものである。

何をもって上位・下位とするかは状況に応じて変わるが，いずれにせよ，上位の階層にあるものの数が少ない。社長＜平社員，貴族＜平民

「ヒエラルキーの下層にあるもの＝数が多い」という結びつきが生まれる。

↓

この結びつきが十分強固になると，次は「数が多い」ということ，つまり集合化することで「ヒエラルキーの下層にある」ことを示すことが可能になる。

「そんな」は，事物の属性に注目し，それと同様の属性をもつ事物の集合を作り上げる働きをもつ。そのため，図の「経験基盤的ヒエラルキー構造」が適用されてしまい，必然的に「ヒエラルキーの下層に位置する属性である」という意味が読み込まれてしまうのであろう。その結果，「低評価」あるいは「発生確率が低い」という意味を表すことになったと考えられる。

「その程度の」の低評価性も同様に説明できる

２．４　そのほかの形式への適用

(11)　ある語が「属性に注目し，同様の事物を集合化する」という機能を持つ時，経験基盤的ヒエラルキー構造の影響から低評価の意味を獲得する。

(12)　本当は合併なんかしたくないんだ。　（『毎日新聞』2002年２月15日朝刊）

(13)　やっぱりみんなはその候補を見に来ているので私など眼中にないのは分かっていながらも(Fあの)誰よりも緊張していたような感じでした

（『日本語話し言葉コーパス』S01F1221）

(14)a.　実力ばかりがものを言う業界

b.　実力だけがものを言う業界

(15)a.勉強をさぼったばかりに，合格しなかった。

b.?勉強をさぼっただけに，合格しなかった。

c.*頑張って勉強したばかりに，合格できた。

d.　頑張って勉強しただけに，合格できた。

(16)　愛だの恋だの｛くだらない／?すばらしい｝。

(17)　「初物」のとまどいやら，慣れ親しんだ独・伊と異なる英語テキストの歌いにくさやらもおそらくあって，なお手探りの感触も残る演奏ではあったかも知れない。　（『毎日新聞』2002年３月12日夕刊）

(18)　?２度や３度見直した｛くらいでは不十分だ／?から十分だ｝。

(19)a.　うわっ，水漏れしてるし！

b.　?うわっ！宝くじあたってるし！

２．５　低評価は「そんな」の意味か？

「そんな」は必ずしも低評価になるわけではなく，単に属性を抽出し集合化する働きもある。しかし，「もの」「こと」のように抽出すべき属性が希薄な名詞に接続した場合，低評価の意味にしかならない。このような場合，低評価の意味は「そんな」にある程度焼き付けられていると考えられる。

(20)??そんなものがほしい。　Cf.　そんなもの，ほしくない。

(21)　「ああ，そんなことか。」「そんなこととは何だ！」

４．　高評価に偏る指示表現

「集合化」→「低評価」

反対にあたるプロセスは存在しないのだろうか？

経験基盤的ヒエラルキー構造ではヒエラルキー上位にあたるものは数が少ない。これに相当するのが「この」「その」「あの」に見られる，高評価を付加する用法であると考えられる。

(22)　これは，あの織田信長が使ったとされる茶碗です。

(23)　はじめてですよ・・・このわたしをここまでコケにしたおバカさん達は・・・

（鳥山明『ドラゴンボール』25）

(22)の「あの」は「あの有名な」「あの著名な」という意味で，後の名詞句の価値を高め，引き立てる働きがあると考えられる。(23)は漫画の悪役の台詞であり，「私」に対して「この」を使っているところに尊大な性格が現れている。「私なんか」とは対照的で，実社会で使用できる場面は限られていると考えられるが，フィクションでは，尊大な性格のキャラクターに見られる表現である。

「この」「その」「あの」は指示物を唯一的に特定する働きをもつ。そこに経験基盤的ヒエラルキー構造が適用されて，高評価につながっていると考えられる。ただし，このような現象が見られるのは(22)(23)のように，後の名詞が固有名詞など，すでに特定されているような時だけと考えられる。指示詞は使用頻度も多く，普通名詞の場合は，単に特定のマーカーとして解釈される。しかし，後の名詞がすでに特定されているような場合にのみ特定の機能が過剰に働き，高評価の意味を帯びるのであろう。

４．　まとめと今後の課題

人が経験基盤的にもつヒエラルキー構造から，「上位のものは数が少なく，下位のものは数が多い」という結びつきがうまれる。これが適用される結果，属性を抽出したうえで複数化する「そんな」は低評価に偏り，唯一のものとして特定する「この」「その」「あの」は高評価に偏る。

今後の課題として以下のような区別が興味深い。

(24)　この程度のものなら，いつでも作れる。

(25)　これほどのものは，見たことがない。

(26)　彼程度の男なら，いくらでも代わりがいる。

(27)　彼ほどの人材は，なかなか現れないよ。

参考文献

鈴木智美(2006)「「そんなＸ…」文に見られる感情・評価的意味―話者がとらえる事態の価値・意味と非予測性―」『日本語文法』6-1，pp.88-105，日本語文法学会.

中俣尚己(2010)「「そんな」や「なんか」はなぜ低評価に偏るか？―経験基盤的ヒエラルキー構造からの説明―」『日本認知言語学会論文集』10，pp.427-437.